

沿岸域の水温は表層で「やや高め」、下層で「平年並み」で推移

令和元年6月14日

(令和元年6月の海況と今後の予測)

茨城県水産試験場

1 海洋観測結果 (6/4~6: 調査船「いばらき丸」)

- ・水温は0m深で16~23℃台, 50m深で9~20℃台, 100m深で8~18℃台, 200m深で6~17℃台でした(図1)。また, 沿岸域の下層では, 北から南下してきた冷水と, 南風が続いた影響で下層の冷水の上昇(湧昇)が見られました(図3)。
- ・前月と比較すると, 沿岸部の50~100m深において降温傾向でした。また, 黒潮流路が離岸した鹿島・犬吠埼定線の沖合域では顕著に降温しました(図2)。
- ・平年と比較すると, 会瀬定線の沿岸域で平年並み~高め, 沖合域で極めて高めでした。大洗定線では, ごく沿岸部で平年並み~やや低めでしたが, それ以外では平年並み~高めでした。鹿島定線では平年並み~やや高め, 犬吠埼定線では広範囲で平年並みですが, 0~50m深でやや低めでした(図5)。
- ・会瀬定線の沿岸部で真潮が, 大洗~鹿島定線の沿岸部で西向きの潮が観測されました。

2 本県周辺海面水温の現況 (図1)

- ・黒潮は犬吠埼の東75マイルを東北東に流れた後, 蛇行して塩屋埼に近づき, 再び沖へ流れています。北限は38° N付近まで達しています。
- ・本県北部沿岸域は10~14℃の冷水に覆われています。
- ・沖合域では黒潮系暖水に広く覆われています。

3 今後1か月の見通し

- ・沿岸域の下層では冷水の影響が残るでしょう。
- ・表層では, 黒潮系暖水の影響および気温の上昇により水温が高い傾向が続くでしょう。
- ・1か月後の沿岸域の水温は, 表層で「やや高め」、下層で「平年並み」となるでしょう。

(参考) 7月の0m水温(東経142度まで)の30年平均(1981-2010)

会瀬:18~20℃台 大洗:19~21℃台 鹿島:18~22℃台 犬吠埼:19~23℃台

詳しい情報は茨城県水産試験場ホームページをご覧ください。

(回遊性資源部 外山 太一郎)

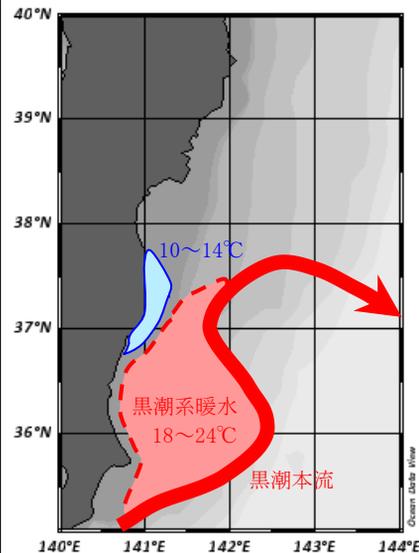
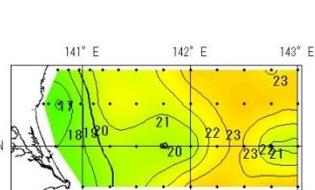
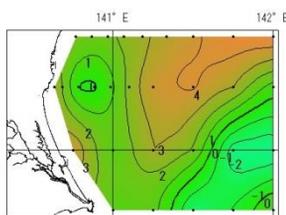


図1. 海面水温の現況 (6月7日)

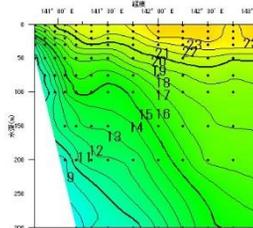
※水温は平年値と比較して,
±1.5℃が「平年並み」,
±1.6~3.9℃が「やや高め・やや低め」
±4.0~6.0℃が「高め・低め」
±6.1℃以上が「極めて高め・極めて低め」



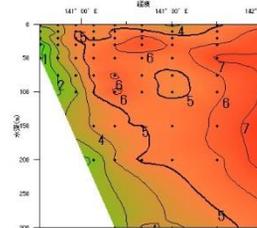
水深0m



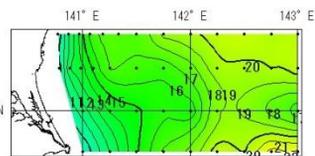
水深0m



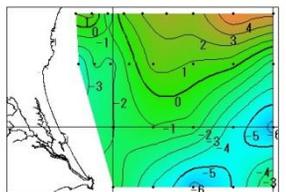
会瀬



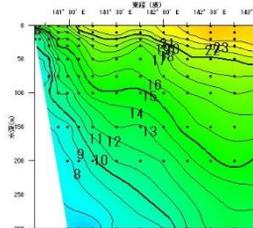
会瀬



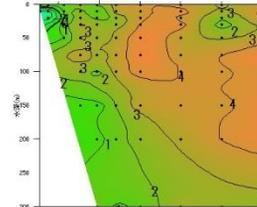
50m



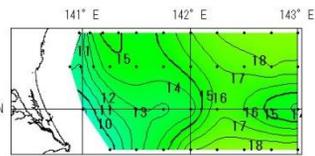
50m



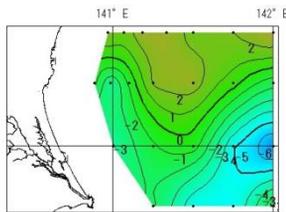
大洗



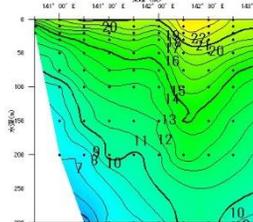
大洗



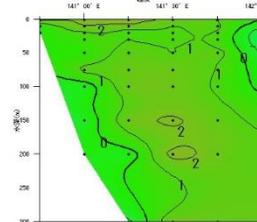
100m



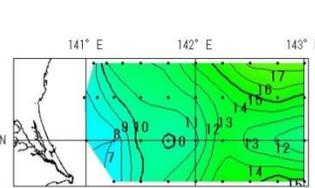
100m



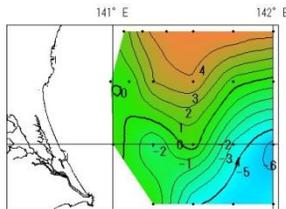
鹿島



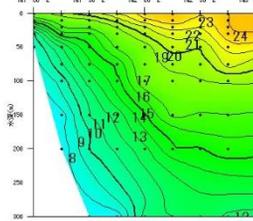
鹿島



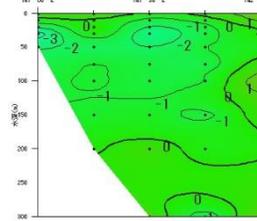
200m



200m



犬吠埼



犬吠埼

図2. 層別水温

図3. 水温前月差

図4. 定線別鉛直水温

図5. 定線別鉛直水温平年差